

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年七月一日(木)

○ 令 達

官房艦機密第一五九三號ノ二

昭和十八年六月三十日 昭和十八年六月三十日 海軍大臣

索引ハ之部中「株式會社花川鐵工所」ノ次ニ「同 名古屋工場 一〇一」ヲ、同部末尾ニ「早川電機工業株式會社」一二五」及「株式會社林兼商店彦島鐵工所 一六六」ヲ加ヘ、ニ之部中「日本冶金工業株式會社」九」ヲ「日本冶金工業株式會社川崎工場 六一」ニ改メ、同部末尾ニ「日本火工株式會社 六〇」、「同 戶塚作業所 一九」、「同 興津作業所 五五」、「日本製鐵株式會社八幡製鐵所 一六七」及「日本自動車株式會社福岡工場 一七二」ヲ、ト之部末尾ニ「東洋チエイン株式會社 一二五」ヲ加ヘ、オ之部中「株式會社大阪鐵工所因島工場」ノ次ニ「同 彦島造船所 一六七」ヲ、カ之部中「川崎重工業株式會社」ノ次ニ「同 艦船工場泉州工場 一二六」ヲ加ヘ、タ之部末尾ニ「株式會社多々良製作所 一七一」ヲ、ナ之部末尾ニ「中野精機株式會社 一七二」ヲ、マ之部末尾ニ「松下電氣工業株式會社 一二六」ヲ、フ之部末尾ニ「株式會社

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

社福岡精工所 一七二」及「深見鐵工所 一七二ノ一」ヲ加へ、ア之部中「株式會社旭製作所」ヲ「旭兵器工業株式會社」ニ改メ同部末尾ニ「株式會社旭製鋼所 一七二ノ一」ヲ加へ、サ之部末尾ニ「山陽色素株式會社 一四六」ヲ、ユ之部中「湯淺蓄電池製造株式會社」ノ次ニ「同 小田原工場 六一」ヲ加へ、シ之部中「昭和火藥株式會社興津作業所 五五」ヲ削リ、ス之部中「住友金屬工業株式會社プロペラ製造所神崎工場」ヲ「住友金屬工業株式會社プロペラ製造所神崎製作所」ニ改メ「住友電氣工業株式會社」ノ次ニ「住友通信工業株式會社 九」ヲ加フ

室蘭監督官監督區域ノ部株式會社日本製鋼所室蘭製作所ノ項取扱主任「大谷益次郎、弘瀬光枝」ヲ削ル

東京監督官監督區域ノ部株式會社日本製鋼所ノ項取扱主任「谷藤富太郎」ヲ「吉田 實」ニ、日本冶金工業株式會社ノ項工場名ヲ「日本火工株式會社戸塚作業所」ニ、取扱主任「熊谷小三郎」ヲ「船越致水」ニ、日本電氣株式會社ノ項工場名ヲ「住友通信工業株式會社」ニ、葛研究所ノ項取扱主任「葛 良修」ヲ「荒木猛男」ニ、株式會社國藤鐵工所ノ項工場主「加藤 武」ヲ「澤藤忠藏」ニ、富士飛行機株式會社ノ項取扱主任「松田義致」ヲ「池松時彦」ニ、藤倉工業株式會社ノ項取扱主任「藤井武夫」ヲ「占部武雄」ニ、藤倉電線株式會社ノ項取扱主任「石橋五郎」ヲ「前田義雄」ニ、三井精機工業株式會社ノ項工場主「三好 廣」ヲ「館野竹之助」ニ、昭和火藥株式會社興津作業所ノ項工場名ヲ「日本火工株式會社興津作業所」ニ改メ取扱主任「石田任重」ヲ削リ、株式會社日立製作所日立工場ノ項取扱主任「辻 瑋」ヲ「今井恒三郎」ニ、株式會社日

立製作所水戸工場ノ取扱主任「福田 裕」ヲ「淨法寺 圭」ニ改メ同部末尾ニ左ノ三項ヲ加フ

日本火工株式会社 <small>(東京市京橋區寶町二ノ一〇寶橋ビル内)</small>	森 曉	石田 任重
日本冶金工業株式會社川崎工場 <small>(神奈川県川崎市大師河原小島新田七〇〇七)</small>	森 曉	石川 悌次郎
湯淺蓄電池製造株式會社小田原工場 <small>(神奈川県小田原市多古一八)</small>	野邊田 重興	西本 音吉

浦賀監督官監督區域ノ部浦賀船渠株式會社ノ項(所在地)ヲ(横須賀市谷戸六〇)ニ改メ
名古屋監督官監督區域ノ部末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

株式會社花川鐵工所名古屋工場 <small>(名古屋市中川區福川町二ノ一)</small>	花川 太吉	水畑 利夫
--	-------	-------

大阪監督官監督區域ノ部大阪金屬工業株式會社ノ取扱主任「向井壯夫」ノ次ニ「加藤剛介」ヲ加ヘ同部末尾ニ左ノ四項ヲ加フ

早川電機工業株式會社 <small>(大阪市阿倍野區西田邊町二五)</small>	早川 徳次	前田 純
東洋チエイン株式會社 <small>(大阪市東淀川區本庄東通一ノ三)</small>	横山 治郎吉	富谷 三郎

海軍公報 (部内限) 號外

<p>川崎重工業株式會社 艦船工場 泉州工場 <small>(大阪府泉南郡多奈川村大字谷川二六七四)</small></p>	<p>鑄谷正輔</p>	<p>三木一彦 <small>(工場一般)</small> 加藤利一 <small>(兵器庫)</small> 佐藤佑彦 <small>(造船社製)</small> 佐藤忠助</p>
<p>松下電氣工業株式會社 <small>(大阪府北河内郡門真町大字三番三二一)</small></p>	<p>龜山武雄</p>	<p>樫内敏行</p>

神戸監督官監督區域ノ部株式會社長谷川鐵工所姫路工場ノ項取扱主任「城島岩次」ヲ「岩田吟次」ニ、川崎重工業株式會社ノ項(所在地)ヲ(神戸市神戸區明石町三八)ニ、三菱重工業株式會社神戸造船所ノ項取扱主任「(造機)丹羽周夫」ヲ「(造機)古久保立一」ニ、「(同)佐藤祐金」ノ次ニ「(造機工作)鷹津冬彰」ヲ加ヘ、「(同)金子岫一郎」ヲ「(同)茂森 薫」ニ、「(修繕部)田村初久」ヲ「(修繕部)村上祥一郎」ニ、「(検査部)大石秀一」ヲ「(検査部)藤田昌二郎」ニ、「(検査、造兵検査)鷹津冬彰」ヲ「(検査、造兵検査)末本 茂」ニ、住友金屬工業株式會社プロペラ製造所神崎工場ノ項工場名ヲ「住友金屬工業株式會社プロペラ製造所神崎製作所」ニ取扱主任「竹迫常榮」ヲ「閑歲俊雄」ニ改メ同部末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

<p>山陽色素株式會社 <small>(姫路市延末八)</small></p>	<p>齋木龜治郎</p>	<p>西村 曉</p>
--	--------------	-------------

廣島監督官監督區域ノ部株式會社旭製作所ノ項工場名ヲ「旭兵器工業株式會社」ニ改ム

株式會社 福岡精工所 本社工場 (福岡市大字比恵一〇五) 白木原工場 (福岡縣筑紫郡大野村大字白木原二四六)	加藤作郎	(本社工場) 下川達夫 木原年郎 (白木原工場) 加藤五郎 江口泰堅
深見鐵工所 (福岡市大字春吉一三五六)	深見藤次郎	深見龍一 柴田虎義
株式會社 旭製鋼所 (福岡縣久留米市京町一五九)	石橋正二郎	川島俊弘 池尻弘

長崎監督官監督區域ノ部川南工業株式會社香燒島造船所ノ項取扱主任「(艦船) 安達一造」ヲ「(庶務) 田中彌三郎」ニ、三菱重工業株式會社長崎造船所ノ項取扱主任「(總務) 吉岡三郎」ヲ「(總務) 西田秀雄」ニ改メ「(營業) 森米次郎」ヲ削リ「(検査) 田中直作」ノ次ニ「(勞務) 吉岡三郎、(營業) 森米次郎、(管轄) 小山五次郎」ヲ加フ

海軍公報 (部内限) 第四千四百三十號

昭和十八年七月三日(土) 海軍大臣官房

○通牒

海人第二號ノ三六六

昭和十八年六月二十八日

海軍省人事局長

各廳長 殿

本人拜受後亡失ノ勳章記章取扱ニ關スル件

通牒

海人第二號ノ七ヲ以テ通牒致置候首題ノ件ニ關シ賞勳局ヨリ立失勳章記章ノ補充當分見込無之旨通知有之現品ノ講入不可能ト認メラレ候條當局ニ於ケル首題取扱ヲ(賞勳局ヨリ取扱再通知アル迄)中止致スベク候ニ付了知相成度

海功調機密第二〇號ノ二

昭和十八年七月三日

海軍功績調査部長

各廳長 殿

海軍功績調査規程ニ關スル件申進

海軍公報(部内限) 第四千四百三十號 昭和十八年七月三日

先般内令第六號ヲ以テ海軍功績調査規程制定セラレ候處之ガ適用ニ關シテハ左記ノ如ク處理相成度

記

- 一 各廳本規程受領後新規ニ移動スル事項ニ關シテハ總テ本規程ニ依ルコトトシ受領以前ニ發令セル功績等級、功績書類ノ様式等ハ遡リテ訂正スルニ及バズ
- 二 功績明細書及履歷書ノ用紙ハ追テ印刷配付セラルル豫定ナルモ之ヲ受領スル迄ハ各廳ニ於テ模造野紙裏面ニ印刷(贋寫)使用スルコト

○辭令

(各通)

海軍大佐 佐野 寅生
海軍技術少佐 井手 洋

昭和十八年度海軍武官任用臨時委員ヲ免ス

(各通)

海軍大佐 澤田 實
海軍技術少佐 菊池 秀夫

昭和十八年度海軍武官任用臨時委員ヲ命ス(以上請)

六八一

海軍省

高本 正行

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス但シ報酬月額九拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(六四軍令部)

海軍司政官 萩野谷 常雄

マカツサル研究所ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(七四支出官 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○事務開始

驅逐艦涼波艦裝具事務所ヲ六月二十五日神奈川縣横須賀市谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○電話番號

横須賀海軍警備隊武裝商船警戒隊本部ノ電話番號ハ左ノ通ニ付警戒隊關係事務ニ關シテハ本電話ヲ利用相成度

横須賀交換 (二二八〇番
四三八一番)

海軍公報 (部内限) 第四千四百三十一號

昭和十八年七月五日(月)

海軍大臣官房

令 達

官房人機密第三一六號

本年七月一日現在第一航空輸送隊ノ職員タル者ハ特ニ
發令スルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第一〇〇

一海軍航空隊ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得
ベシ

昭和十八年七月一日

海軍大臣

官房艦機密第三一九號

艦船造修規則及兵器造修規則ノ定ムル所ニ依リ艦船ノ

本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長宛提出(送付)スベキ

完成書類及成績表ハ當該艦船ガ大阪警備府ニ所屬スル

モノナレトキハ之ヲ大阪警備府司令長官宛提出(送
付)ス

昭和十八年七月二日

海軍大臣

官房艦機密第三三五號

大東亞戰爭中海軍共濟組合規則ノ適用ニ關スル特例ノ
件左ノ通定ム

昭和十八年七月五日

海軍大臣

第一條 共濟組合各部組合員タル者大東亞戰爭中特設

海軍航路部、特設海軍經理部、特設海軍建築部、特

設海軍軍需部、特設海軍工作部、特設海軍建設部、

特設海軍航空廠、特設海軍燃料廠、特設海軍病院、

特設海軍補充部、特設艦船部隊等(以下特設應ト稱

ス)ニ所屬ヲ轉ジタルトキハ海軍共濟組合規則(以

下規則ト稱ス)ノ適用ニ關シテハ之ヲ前所屬應ニ所

屬ノ儘派遣セルモノト看做ス

第二條 共濟部組合員(丙組合員ヲ除ク)海軍戰時特

例給與規則第一條ニ掲グル地域(以下戰地ト稱ス)

ニ在ルトキ(一時往復スル場合ヲ含ム)ハ最終ニ戰

地外ノ地ヲ出發ノ日ヨリ始メテ戰地外ノ地ニ歸着ノ

海軍公報(部内限) 第四千四百三十一號 昭和十八年七月五日

六八三

日迄規則第四十三條及第五十六條ノ規定ヲ適用セズ
 前項ニ定ムル者ニ對シテハ最終ニ戰地外ノ地ヲ出發
 ノ月ノ翌月ヨリ始メテ戰地外ノ地ニ歸着ノ月迄規則
 第二十八條ノ規定ニ拘ラズ掛金ヲ徵收セズ
 第三條 規則第九十六條及第一百一條第一項ノ規定ノ適
 用ニ關シ戰地ハ之ヲ外國ト看做ス

附則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
 昭和十五年官房機密第四一九七號ハ之ヲ廢止ス
 昭和十七年官房機密第一七一六號中一、ノ(八)ヲ削ル
 本令施行ノ際現ニ特設廳所屬ノ共濟部組合員ニシテ第
 一條ノ規定ニ該當セザルモノハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ
 當該特設廳所屬ノ共濟部組合員トス但シ其ノ組合事務
 ハ規則第四條ノ規定ニ拘ラズ海軍艦政本部長ノ定ムル
 應ニ於テ之ヲ分掌スルコトヲ得

○通牒

官房第七五八號

昭和十八年七月一日

海軍次官

各廳長殿

海軍豫備員、海軍豫備員候補者ノ敬禮ニ
 關スル件通牒

今般海軍豫備學生規則改正セラレタル處首題ニ關シテ
 ハ各科少尉候補生、見習尉官及海軍豫備學生ニ對シテ
 ハ准士官ヨリ、海軍生徒ニ對シテハ海軍豫備生徒ヨリ
 先ヅ敬禮ヲ行フベキ義ト了知相成度
 追テ昭和十六年官房第六五〇四號ハ自然消滅ニ付了
 知相成度

軍務二機密第四九號

昭和十八年六月十九日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

定期備船中ノ外國籍船ニ關スル協定ノ件
 申進

首題ノ件ニ關シ海軍省副官ト在本邦獨國、伊國大使館
 附海軍武官トノ間ニ左記ノ通協定相成候

記

定期備船中ノ外國籍船ニ關スル協定

第一 定期備船中ノ外國籍船(以下備船ト略稱ス)ハ
 船尾旗竿ニ日本國旗ヲ掲グルモノトス

但シ後橋頂ニ自國國旗ヲ掲グルコトヲ得

第二 日本側ハ左ノ日本乗組員ヲ各備船ニ配乗ス

連絡船長 一名

無線通信士 一名乃至三名

信號員 六名以内

砲員 四名以内

右ニ對スル諸經費ハ日本側ニ於テ負擔シ其ノ待遇並

ニ居住ハ固有船員ニ準ズ

但シ備船契約等ニ於テ別段ノ取扱アル場合ハ此ノ限

ニアラズ

第三 備船ニ對スル船舶保護上ノ取扱ハ日本船ニ準ズ

ルモノトシ左ニ依ル

一 船舶保護ニ關スル帝國海軍及遞信各官憲ノ指示

ニ從フモノトス

二 船舶保護上必要ナル圖書ハ日本船ニ準ジ貸與ス

但シ之ガ保管竝ニ使用ハ日本乗組員ニ限ルモノト

ス

第四 固有船長ハ固有任務ヲ遂行ス此ノ場合連絡船長

ノ傳達スル船舶保護ニ基ク帝國海軍官憲ノ指示ニ從

ヒ行船スルノ義務ヲ有スルモノトス

固有船長連絡船長ノ指示ニ危惧ノ念ヲ有スル場合ハ

連絡船長ト協議スルモノトシ之ニ對シ連絡船長右指

示ヲ強行セントスル場合右實情ヲ航海日誌ニ記入ノ

上連署シ且固有船長ノ危惧セシ事件發生シタル場合

ノ責任ハ固有船長之ヲ負ハザルモノトス

日本乗組員ニ對スル要求ハ凡テ連絡船長ヲ通ジテ行

フヲ原則トス

第五 連絡船長ノ任務左ノ如シ

一 日本乗組員ヲ監督ス

二 船舶保護上必要ナル出入港、航路、行船、敵情、

氣象等ニ關シ帝國海軍官憲ノ指示ヲ固有船長ニ迅

速確實ニ傳達シ且之ガ實施ヲ督促シ以テ固有船長

ヲシテ確實ニ實施セシムルノ責任ヲ有ス

船舶其ノ他ノ現狀右指示ニ據リ難キ場合ハ帝國海

軍官憲ニ意見具申ヲ行フモノトシ帝國海軍官憲ト

ノ連絡ヲ執リ得ザル場合若ハ緊急ヲ要シ帝國海軍

官憲ノ指示ヲ仰グ逸ナキ場合ハ固有船長ト協議ノ

上善處シ其ノ旨帝國海軍官憲ニ報告スルモノトス

三 固有船長ト帝國海軍及遞信各官憲並ニ日本商社

トノ連絡ニ任ズ

第六 日本官憲トノ無線電信ノ發受ハ凡テ日本無線通

信士ニテ行フ

海軍公報（管内限）第四千四百三十一號 昭和十八年七月五日

六八六

固有船長ハ連絡船長ト協議ノ上日本側所定通信時間外且帝國法規ノ許ス範圍ニ於テ自國「ニュース」ノ受信ヲ行フコトヲ得

第七 信號通信ハ凡テ日本信號員ニテ行フ

第八 對敵攻撃ハ一切日本側ニ於テ行フ

此ノ場合連絡船長ハ固有船長ニ連絡スルモノトス

第九 船内ニ通信其ノ他重要ナル諸施設ヲ新設又ハ變更スル場合備船者及船主ハ豫メ相互ニ連絡スルモノトス

第十 船員ハ寄港地ニ於テ上陸竝ニ宿泊スルコトヲ得但シ遊歩區域ニ關シテハ同地地方官憲ノ指示ニ從フモノトス

第十一 備船期間中入渠修理ヲ要スル場合ト雖モ前各條ノ取扱ヲ準用スルモノトス

第十二 備船海難ニ罹リタル場合救助船ノ手配竝ニ救助作業ハ備船者側ニ於テ其ノ責ニ任ジ船内作業ニ關シテハ船主竝ニ備船乗組員之ニ協力スルモノトス

此ノ場合固有船長ニ關係アル發受信ハ連絡船長之ヲ固有船長ニ傳達スルモノトス

第十三 前條ノ場合連絡船長ハ固有船長ト連絡ノ上日本官憲ノ要求スル諸報告ヲナスモノトシ固有船長ハ

連絡船長ノ要求スル船内諸書類ヲ提示スルモノトス
(註) 獨側ニテハ連絡船長ヲ Verbindung Officer
(連絡士官)ト呼稱ス

契十二第三號ノ一〇五

昭和十八年七月一日

海軍省兵備局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

自動車部分品需給統制要領ノ件通牒

昭和十八年度自動車修理用部分品ノ需給ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

記

一、契約相手方

日本自動車配給株式会社(社内製品)

日本自動車部分品工業組合(右以外ノ部分品)

二、契約方式

中央統制契約トシ經理局ニ於テ契約ヲ締結ス

三、需給手續

(一) 各部局ハ年間所要量ヲ經理局ニ通知ス

(二) 經理局ハ前號ニ基キ日本自動車配給株式会社(以下單ニ日配ト稱ス)及日本自動車部分品工業組

<p>(十) 合(以下單ニ部品組合ト稱ス)ニ概量内示スルト同時ニ海軍車輛工業會ニ寫二通ヲ送付ス</p> <p>(九) 海軍車輛工業會ハ所要資材ヲ調査算定シ關係各部局毎ニ資材申請書ヲ作成シ經理局ヲ通シテ各部局ニ提出ス</p> <p>(八) 各部局ハ前號ニ對シ檢討ヲ加ヘ所要品種並ニ資材量額ヲ經理局ニ通知シ、經理局ハ海軍車輛工業會經由日配及部品組合ニ之ヲ通知ス</p> <p>(七) 各部局ハ製品受領應ヲ選定シ經理局ニ通知ス各部局ハ海軍車輛工業會經由日配及部品組合ニ對シテ各四半期毎ノ所要資材ヲ一ヶ月前迄ニ發給スルモノトス</p> <p>(六) 日配及部品組合ハ製造完了検査ノ上日配倉庫又ハ部品組合倉庫ニ搬入シ同所ヨリ製品受領應ヘ納入ス</p> <p>(五) 日配及部品組合ハ製品發送ト同時ニ關係各部局別納入票四通ヲ作成シ海軍車輛工業會經由經理局及關係各部局ニ送付ス</p> <p>(四) 要求元各廳ハ第五號ノ製品受領應ヨリ納入品ノ保管轉換ヲ受クルモノトス</p> <p>(三) 日配及部品組合ノ生産品目ハ日産、トヨタ、イ</p>	<p>スズノ部分品トシ其ノ細目ハ別表區分表ニ依ル</p> <p>四、代金支拂</p> <p>製品ハ分納ヲ許スモノトシ代金ハ納入後、十五日以内ニ製品受領應ヨリ日配及部品組合ニ對シテ支拂フ</p> <p>五、其ノ他實施ノ細目ニ關シテハ別ニ定ム</p> <p>(別表區分表ハ所要ノ向ヘ配付ス)</p> <p>海人第一號ノ一〇〇</p> <p>昭和十八年七月二日</p> <p>關係所轄長殿</p> <p>海軍省人事局長</p> <p>兵進級決定候補名簿ニ登載スベキ者ノ範圍ニ關スル件申進</p> <p>昭和十七年十二月下旬各科ノ一等兵ニ進級シタル者ニシテ本年官房人第九八八號第二號表中上等兵ヘノ進級實役停年ヲ有スル者ハ今期特ニ兵進級決定候補名簿ニ登載セラレ差支無之内意ニ付了知相成度</p> <p>經豫第三號ノ一六八</p> <p>昭和十八年七月三日</p> <p>海軍省經理局長</p> <p>各歲入徵收官、收入官吏</p> <p>各支出官、資金前渡官吏</p> <p>殿</p>
---	--

海軍公報(部内限)第四千四百三十一號

昭和十八年七月五日

六八七

國庫内ニ於ケル移換ニ依ル歳入金ノ受入
又ハ歳出金ノ支出ニ關スル錢位未滿ノ金
額ノ處理ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ別紙要領ニ依リ處理ノコトト相成
候條了知相成度

追テ當分ノ内國庫金等ノ錢位未滿端數ノ整理上特ニ
必要アル場合ニ於テハ別紙處理要領ニ依ラズ所管大
臣大藏大臣ト協議ノ上適當ナル措置ヲ講ズルコトト
相成居候

(別紙)

計發第一〇七號(昭和十八年五月五日)
(大藏省主計局長通牒)

國庫内ニ於ケル移換ニ依ル歳入金ノ受入
又ハ歳出金ノ支出ニ關スル錢位未滿ノ金
額ノ處理要領

一 國庫内ニ於ケル移換ニ依ル歳入金ノ受入又ハ歳出
金ノ支出ニシテ其ノ金額ニ錢位未滿ノ端數アルトキ
ハ其ノ端數ハ之ヲ切捨テ其ノ金額錢位未滿ナルトキ
ハ之ヲ一錢トスルコト

二 前號ハ昭和十八年四月一日以降ノ取扱ニ付之ヲ適
用スルコト但シ昭和十七年度分ノ收入又ハ支出ニ付
テハ之ヲ適用セザルコト

軍需機密第四三四號

昭和十八年七月三日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

海軍徵備船舶ニ對スル艦營需品ノ供給處
理ニ關スル件通牒

本年官房需機密第五一號ニ依リ海軍徵備船舶ニ艦營需
品ヲ供給スル場合ハ別ニ規定アルモノノ外左記ニ依リ
處理相成度

追テ昭和十八年一月二十二日軍需機密第四四號ハ
之ヲ廢止ス

本號ハ昭和十八年六月一日ヨリ之ヲ適用ス

記

- 一 艦營需品ハ總テ有償供給トシテ整理スルモノトス
- 二 一年ノ供給標準額ヲ左ノ通トス
 - 一〇、〇〇〇噸以上ノモノ 一、五〇〇圓以内
 - 五、〇〇〇噸以上ノモノ 一、〇〇〇圓以内
 - 三、〇〇〇噸以上ノモノ 八〇〇圓以内
 - 一、〇〇〇噸以上ノモノ 六〇〇圓以内
 - 一、〇〇〇噸未滿ノモノ 五〇〇圓以内

(註) 自昭和十八年六月一日(日)ハ本金額ヲ以テ
至昭和十九年三月三十一日(日)ハ本金額ヲ以テ
一年分ト見做ス

- 三 海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム以下同)艦營
需品ヲ供給セントスルトキハ當該船舶ノ船長ヲシテ
別紙様式第一ニ依ル艦營需品供給額明細簿ヲ提示セ
シメ所要事項ノ記載ヲ受ケシムルモノトス
前項ノ供給額明細簿ハ初度供給ヲ爲ス海軍軍需部ニ
於テ調製交付ノ上速ニ之ヲ各軍需部ニ通知スルモノ
トス
- 四 艦營需品ヲ供給シタル海軍軍需部ハ各船毎ニ一月
分ヲ取纏メ別紙様式第二ニ依ル供給集計表ヲ五通作
製シ一通ヲ海軍省軍需局ニ、四通ヲ備船契約廳ニ送
付スルモノトス
- 五 備船契約廳ハ前號ノ供給集計表ニ依リ供給代價ヲ
備船契約代價ヨリ差引モノトス
- 六 供給シタル艦營需品ノ單價ハ時價ニ依リ各海軍軍
需部ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス
- 七 本標準額ヨリ以上ニ供給ノ要アル場合ハ當局ニ協
議スルモノトス

(様式二葉添)

艦本第一四號ノ二六三三
昭和十八年七月五日

海軍艦政本部長

官房艦機密第三三五五號ニ依ル大東亞戰爭中海軍共濟
組合規則ノ適用ニ關スル特例ノ件中第一條ノ規定ニ該
當セザル組合員ノ組合事務ハ規則第四條ノ規定ニ拘ハ
ラズ本部之ヲ分掌シ其ノ主務ヲ總務部第四課トス

艦本第一四號ノ二六三三
昭和十八年七月五日

海軍艦政本部總務部長

各應海軍共濟組合事務分掌官殿
特設廳ニ於ケル組合事務分掌ニ關スル件
申進

今般艦本第一四號ノ二六三三ニテ大東亞戰爭中特設
廳ニ於ケル組合事務ニ付艦政本部之ヲ分掌セシメラレ
タルニ就テ之ガ事務取扱ハ左記ニ依ラレ度
追テ本取扱ニ屬スル分ハ昭和十五年官房機密第四一
九七號ニ依リ特設廳ハ現業廳ト定メラレタル爲其ノ
應ニ於テ從來事務ヲ處理シアリタル者(十七年官房
機密第一七一六號ニ依ラザル者)ニ限ル義ニ有之爲念

海軍公報(部内限)第四千四百三十一號 昭和十八年七月五日

六八九

記

- 一 組合員原票及之ニ關聯スル一切ノ書類ヲ當部第四課長宛送付スルコト
- 二 移管スベキ組合員ノ掛金總額ハ各人別明細表ヲ此ノ際艦政本部特設應部出納主任宛送金スルコト
- 三 毎月ノ組合員掛金ハ月別掛金明細表ヲ添付シシケ月毎ニ取纏メ前項ニ準ジ送金ノコト
- 四 組合員轉勤、轉職、任官、死亡、給料異動、丙組合員ニ申請、改氏名等ハ洩レ無ク直ニ通知スルコト
- 五 今回ノ改正ニ依ル掛金取扱區分
工 員 從來通掛金ヲ徵收セズ
雇員 傭人 本年三月末日迄ハ掛金徵收シ上艦政本部特設應部出納主任ニ移管ノ事、四月以降ニ於ケル掛金既徵收額ハ各特設應部ニテ本人へ返戻ノコト
判任文官、同 從來通掛金徵收ノ上前第三號ニ依ル待遇者、囑託

(様式第一)

昭和 年度

(何 丸)

艦營需品供給額明細簿

(昭和十八年七月五日海軍公報(部内限))

備考 本簿ハ艦營需品ノ補充ヲ請求スルトキ海軍軍需部ニ提示スルモノトス

標 準	額	供 給	額	差 引	額	記 事
軍需部長	① 一、〇〇〇〇					
兵備品會計官吏		① 五〇〇〇				
				① 九五〇〇		何々外何廉 何月何日某軍需部供給

備考 一 本簿ノ紙數ハ適宜トス
二 差引額ハ其ノ都度軍需部ニ於テ記入スルモノトス

1069

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百三十二號

昭和十八年七月六日(火)

海軍大臣官房

命令

官職入機密第一四號

當分ノ内昭和十八年七月一日現在ニ於テ左ノ官職ニ在
ル者ノ各上級ノ官職ヘノ進級實役停年ハ海軍豫備員令
第二十條及同施行規則第十八條ノ二第二項ノ規定ニ依
リ之ヲ各頭書ノ通短縮ス

昭和十八年七月一日

海 軍 大 臣

六月

豫備員タル二等飛行兵曹及同二等整
備兵曹

三月十五日

豫備一等兵

通牒

兵備第二號ノ一〇八

昭和十八年六月十五日

海軍省兵備局長

海軍公報(部内限) 第四千四百三十二號

昭和十八年七月六日

六九二

關係各廳長殿

綿糸發註計畫書記載様式ニ關スル件照會

昭和十八年第一乃至第二四半期發註計畫書記載様式
左記ノ通ニ有之候條了知ノ上可然處理相成度
尙第三四半期以降ノ分ニ關シテハ追而照會可致候
記

一 二種以上ノ異レル糸ヲ使用セル交織織物

一八織局第二九九六號商工省織維局長通牒ニ依ル

(別紙)(様式第一)

二 右以外ノ織物

從來通(様式第二)

(別紙)

一八織局第二九九六號

昭和十八年五月三十一日

商工省織維局長 西 川 浩

海軍省兵備局長殿

軍需發註計畫書ニ關スル件

昭和十八年五月三十一日

商工省纖維局長 西川 浩

綿ス・フ統制會會長
人絹統制會會長
羊毛統制會會長
麻統制會會長

軍需用糸制當ニ關スル件

軍發註ニ係ル二種以上ノ織糸ヨリナル織物用原糸ノ割當團體ニ關シテハ昭和十八年度ヨリ左記ノ如ク取扱フコトト致度候條右了知ノ上可然措置相成度此段及通牒候也

追而交織織物ノ發註計畫書ニ關シテハ昭和十八年度ヨリ同一計畫書ニ記載方別紙寫ノ通陸海軍ニ對シ依賴致置候ニ付爲念申添候

記

異種ノ糸ヲ以テ製織スル織物用原糸ノ制當ニ關シテハ原則トシテ受配者ノ使用織機ヲ登錄セル統制會ヨリ配給スルコトトシ受配者ガ二以上ノ統制會ニ加入シ居ル場合ハ當該織物ヲ製織スル織機ノ登錄シアル統制會ヨリ配給スルコト但シ製織スル織物ノ品種ニヨリ當該統制會ヨリ糸ノ配給ヲナスヲ適當(次項參照)ト認メ難キ場合ハ當該織機ヲ該當統制會ニ轉籍セシムルカ若ク

從來二種以上異レル糸ヲ使用セル交織織物ノ發註計畫書ハ糸別ニ之ヲ異ニセルヲ以テ經糸、緯糸及其糸ノ所要量分明ヲ缺キ生産計畫作成ノ上種々困難ヲ來シ爲ニ製織遲延ノ虞アリ軍需品整備ノ上ニモ支障ヲ來ス結果トモ相成様思考セラレ候ニ付テハ昭和十八年度ヨリ左記ノ如ク發註計畫書作成相成様致度尙貴軍關係各發註部局ニ對シテモ右ノ趣旨徹底方可然取計相成度此段及通知候也

追而軍ニ於テ交織物ノ製造者指定ニ際シテハ別紙各統制會宛通牒寫參照ノ上委託セル製造業者ノ手持織機ノ登錄關係ヲ豫メ調査ノ上發註相成度申添候

記

二種以上ノ異レル糸ヲ使用スル織物ノ發註計畫書作成ニ當リテハ當該織物ノ品名、所要糸ノ種類、各糸ノ番手及數量ヲ同一計畫書ニ明記シ同時ニ織物ノ密度(經糸及緯糸ノ打込本數)巾(吋)長(碼)、反數ヲ記載スルコト

尙製造業者ノ受託製品製造ニ責任ヲ負ハシムル爲メ發註計畫書製造者欄ニ製造業者ノ印章捺捺セシムルコト

(別紙寫)

一八織局第二九九六號

ハ受配者ノ變更ヲ軍ト交渉スルコト
各統制會ニ於テ夫々割當ヲ適當トスル織物ノ種類次ノ
如シ

綿ス・フ統制會

綿織物(交織物ヲ含ム)ス・フ織物(交織物ヲ含ム)、強力人絹タイ

ヤコード用布但シ軍需用生交織麻布(經糸ハ綿糸、緯糸ハ麻糸使用ノ綿織物)ヲ除ク

人絹絹統制會

人絹織物(交織物ヲ含ム)絹織物(交織物ヲ含ム)

羊毛統制會

毛織物(交織物ヲ含ム)麻統制會

麻織物(交織物ヲ含ム)軍需用生交織麻布

備考

右織物ノ呼稱ハ昭和十三年四月一三工第二六四七號
商工次官通牒ニ依ルモノトス但シ綿ス・フ統制會ニ
登録シアル紡績機(ガラ紡績ヲ含ム)ニヨリ紡績シ
タル糸ハ之ヲ綿糸又ハス・フ糸羊毛統制會ニ登録シ
アル紡績機ニヨリ紡績シタル糸ハ之ヲ毛糸、人絹、
絹統制會ニ登録シアル紡績機ニヨリ紡績シタル糸ハ
之ヲ絹糸、麻統制會ニ登録シアル紡績機ニヨリ紡績

シタル糸ハ之ヲ麻糸トシテ取扱フモノトス
(別紙ニ葉添)

經監第三六號

昭和十八年七月二日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

特別行爲稅免除ニ關スル件通牒

本年勅令第三百二十六號ニ依リ四月一日ヨリ特別行爲
稅法施行セラレ候處海軍ノ軍人、軍屬及海軍大臣ノ監
督ニ屬スル團體等ノ爲ニ爲ス左記一ニ掲グル行爲ニ付
テハ左記二ノ手續ニ依ルトキハ特ニ課稅セラレザルコ
トニ主務省ト協議濟ニ付可然取計相成度

記

一 課稅免除ノ範圍

(イ) 海軍軍人ノ服裝品(正裝及禮裝ヲ除ク)及海軍
文官從軍服ノ仕立

(ロ) 海軍ノ官衙、部隊若ハ學校又ハ海軍士官ヲ以テ
組織スル團體ニ於テ編纂シ專ラ軍人、軍屬ノ教育

若ハ研究ノ用ニ供シ又ハ部外ノ學校ニ於ケル軍事
教練ノ用ニ供スル出版物ノ印刷及製本但シ出版物

海軍公報(部内限)第四百三十二號

昭和十八年七月六日

六九三

(ハ) 頒布ニ付營業的色彩アルモノヲ除ク
海軍大臣ノ監督ニ屬スル團體ガ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ軍人、軍屬ノ教育訓練、恤兵又ハ遺家族慰問ノ用ニ供スル爲出版スル圖書ノ印刷及製本但シ出版物ノ頒布ニ付營業的色彩アルモノヲ除ク

二 課税免除ニ對スル手續

(イ) 前號(イ)ニ該當スルモノニ付テハ海軍經理部長(東京ニ在リテハ海軍省經理局第二課長以下同シ)

ハ服裝品又ハ從軍服ノ仕立ヲ爲ス者ヲシテ本通牒ニ依リ課税免除ノ取扱ヲ爲スヲ要スルモノニ付一月分ヲ取纏メ注文者ヨリ交付ノ注文ニ關スル書類ヲ添附シ特別行爲税免除ニ關スル申請ヲ爲サシメ之ニ對シ證明ヲ爲シ又ハ適宜ノ證明書ヲ交付スルコト

前項ニ依リ難キ場合ハ海軍經理部長ハ服裝品又ハ從軍服ノ調製ヲ注文スル者ノ申請ニ依リ特別行爲税免除ニ關スル證明書ヲ交付スルコト

(ロ) 前號(ロ)ニ該當スルモノノ内海軍ノ官衙、部隊又ハ學校ニ於テ編纂スルモノニ付テハ當該出版物ニ編纂者名ヲ明記スルコト

(ハ) 前號(ロ)ニ該當スルモノノ内海軍士官ヲ以テ組織

スル團體ニ於テ編纂スルモノ及前號(ハ)ニ該當スルモノニ付テハ當該團體ニ於テ特別行爲税免除ニ關シ海軍大臣ノ認可書ヲ交付ヲ受クルコト
前號ノ認可書ハ週刊又ハ月刊等定期出版ノモノニ付テハ初版ノトキ、隨時出版ノモノニ付テハ其ノ都度之ヲ受ケ印刷又ハ製本業者ニ交付スルコト
(ニ) (イ)第二項ニ依リ海軍經理部長ノ交付スル證明書ハ別紙様式ニ依ルコト

(別紙様式)

番 號

證 明 書

一 品 名 數 量

一 注文者又ハ著用者 官 氏 名

右ノ者ニ對スル特別行爲税法第一條第四號ノ行爲ニ付テハ特別行爲税ノ課税ヲ免除セラルベキモノトス

昭和 年 月 日

海軍經理部長
(海軍省經理局第二課長)

軍需機密第四三八號

昭和十八年七月六日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

烹炊用燃料現地調達使用ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ輸送力ノ關係上從來屢現地調達品
使用ノコトニ強調シ來レル處最近ニ於ケル輸送力ハ漸
次逼迫ノ狀況ニ在リテ兵器彈藥及糧食ノ補給ニモ影響
ヲ及ボス懼有之ニ付自今烹炊用燃料ハ極力現地ニ於テ
調達シ萬己ムヲ得ザル場合ノ外ハ内地ヨリ輸送セザル
コトニ定メラレ候條可然取計相成度

尙本件ニ關シテハ昭和十七年八月二十七日軍需機密
第九四八號ヲ以テ申進ノ趣旨ヲ充分活用セラレ度

(參照) 昭和十七年八月二十七日軍需機密第九四八號ハ新入手困難
ナル地方ニ在リテハ極力石炭ヲ使用シ節約ノ件ナリ

○ 辭 令

小出 三郎

第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(昭和十七年八月三十日)海軍省

(各通)

龜井 五郎
小坂 信教

水路部ニ於ケル業務囑託ヲ解キ南西方面艦隊ニ於ケ

ル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(七五同)

高妻 秀直

水路部ニ於ケル業務囑託ヲ解キ南東方面艦隊ニ於ケ
ル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(三三同)

參千六百六拾圓

佐藤 信英

參千六百圓

小林 良正

參千四百圓

吉岡 恒夫

貳千四百貳拾圓

寺部 俊次

貳千五百拾圓

土井 章

千六百五拾圓

小山 嵩

千四百七拾圓

澤田 五郎

千四百七拾圓

中島 文男

南西方面艦隊司令部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ「バタ
ビヤ」在勤海軍武官府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官
待遇トス

古川 秀忠

第二南遣艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解キ「ホルネオ」

民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
(以上三四同)

海軍公報(部内限) 第四千四百三十二號

昭和十八年七月六日

六九五

第三南遣艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(十八日同)

(各通)

北島 眞恒
芦名 庄助
向山 博人

第一南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(二十五日同)

第二南遣艦隊事務囑託

(各通)

小澤 嘉一郎
金子 啓藏

自今報酬ヲ給セス(五日同)

岡松 楯夫

徴用中自今年額參千圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(十八日同)

太田 精一

第十一海軍航空廠工員養成所教務囑託ヲ解ク(二十二日同)

渡谷 一雄

徴用中自今年額貳千四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二十五日同)

秋田 陽一郎

ニューギニア民政府ニ於ケル齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

深谷 富之助

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一日同)

淵 通義

マカツアル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額貳千百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(五日同)

對馬 親文

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

池田 勇

海軍運輸部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク
白谷 信一

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

東 信隆

第三南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上一日同)

寄川 義雄

ニューギニアア政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

ス(二十日同)

鐵道官 池田 喜一郎

横須賀鎮守府附ヲ免シ横須賀海軍運輸部附ヲ命ス

同 熊野 正太郎

吳鎮守府附ヲ免シ吳海軍運輸部附ヲ命ス

同 山本 巖

佐世保鎮守府附ヲ免シ佐世保海軍運輸部附ヲ命ス

同 酒居 正一

舞鶴鎮守府附ヲ免シ舞鶴海軍運輸部附ヲ命ス

同 後藤 毅一

大阪警備府附ヲ免シ大阪海軍運輸部附ヲ命ス

横須賀地方海軍運輸部囑託

三隅 朝雄

高江 興四郎

千葉 信次郎

水口 雅彦

色川 康夫

宮田 壽雄

東京地方海軍運輸部囑託

青柳 辰男

三並 豪

鈴木 寛

宮本 孝

望月 政之

宍戸 清

四日市地方海軍運輸部囑託

中林 奇一

森岡 加之助

石原 左將

横須賀海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬
待遇如故)

佐世保地方海軍運輸部囑託

國友 正道

川村 吉信

富永 重雄

上枝 忠義

佐世保海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬
待遇如故)

舞鶴地方海軍運輸部囑託

近藤 精市

海軍公報(部内限) 第四千四百三十二號 昭和十八年七月六日

六九七

(各通)

森 芳規
長嶋 信太郎

舞鶴海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

大阪地方海軍運輸部囑託

(各通)

神戸地方海軍運輸部囑託

藤本 俊一
壹岐 建夫

大坂海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

大湊地方海軍運輸部囑託

金 澤 節
若月 利治
若井 豊藏

小樽地方海軍運輸部囑託

(各通)

釧路地方海軍運輸部囑託

加藤 徹四郎

室蘭地方海軍運輸部囑託

森島 靖雄
古田 六郎
高内 知海

大湊海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

札幌地方海軍人事部囑託兼小樽地方海軍運輸部囑託

杉山 秀夫

小樽地方海軍運輸部事務囑託ヲ解キ兼大湊海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

鎮南浦地方海軍運輸部囑託

三浦 辰夫

(各通)

大連地方海軍運輸部囑託

弘田 龍之進

鎮海海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

高雄地方海軍運輸部囑託

(各通)

新妻 太郎
樋口 政次

高雄海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

スラバヤ地方海軍運輸部囑託

中村 五百藏

<p>(各通) マカツサル地方海軍運輸部囑託 山岡 久吉</p> <p>アンボン地方海軍運輸部囑託 小島 謙也</p> <p>スラバヤ海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス<small>(報酬如故)</small><small>(以上 二六、五〇〇圓同)</small> 山田 顯定</p> <p>(各通) 貳千四百圓 村岡 憲一</p> <p>(各通) 千九百八拾圓 近藤 義雄</p> <p>徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限委任官待遇トス<small>(三六、〇〇〇圓同)</small> 地質調査所技師 堀 純郎</p> <p>第一南遣艦隊司令部附ヲ免ス 内務屬 永野 重太郎</p> <p>南西方面海軍民政附ヲ免ス<small>(以上 一七、〇〇〇圓同)</small> 臺北州公立國學校訓導 八卷 正幹</p> <p>海南警備府附ヲ免ス<small>(一七、〇〇〇圓同)</small> 京都帝國大學教授 澤村 宏</p> <p>(各通) 九州帝國大學教授 谷村 照</p> <p>廣海軍工廠鑄物實驗部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額千圓ヲ贈與ス</p>	<p>第八海軍軍需部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス 村崎 一郎</p> <p>(各通) 霜鳥 芳三</p> <p>海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス 中島 宗一</p> <p>海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金五百圓ヲ贈與ス 海軍省事務囑託ヲ解ク 海軍省事務囑託 豐田 久二</p> <p>部内限勅任官待遇トス<small>(報酬如故)</small> 東京帝國大學教授 我 妻 榮</p> <p>海軍經理學校ニ於ケル民法教授ヲ囑託シ報酬年額千五百圓ヲ贈與ス 三竝 貞三</p> <p>海軍省事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス 鈴木 一郎</p> <p>長谷川 昌夫</p>
--	---

海軍公報(部内限)第四千四百三十二號 昭和十八年七月六日

六九九

(各通)

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小笠原 隆	前田 柳一	今井 保一	神保 銚正	岡野 六彌	小野 三男	服部 正男	古筆 最典	木村 一男	佐々木 高	富永 基隆	三橋 保	新貝 敏之	島村 安彦	原田 康男	大澤 祐太郎	田中 鐵次	橋本 安起	菅原 正孝	小松 昌夫
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス

草野 亮	橋本 龍一郎	松岡 敬信	瀬崎 成三	古河原 吉雄	中塚 正明	三浦 滿	田邊 千代子	石川 次郎	桑原 松子	鈴木 行雄	阿部 悉雄	河崎 玉江	天野 美都里	廣瀬 久代	齋藤 久子	五十嵐 環	望月 嘉代子	山田 茂雄	宮ヶ原 登
------	--------	-------	-------	--------	-------	------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	-------	-------

(各通)

(各通)

阿部勝海	片倉清	竹田俊司	寺田仁	萩久保幸子	立田正	村上光夫	柴田正藏	赤堀行雄	本田信一	東幸博	服部仙之助	伴野秋義	山本武	稻場正章	庭山文子	原田泰藏	泉勇	桑原隆文	渡邊興志雄	辻丈雄
------	-----	------	-----	-------	-----	------	------	------	------	-----	-------	------	-----	------	------	------	----	------	-------	-----

海軍省事務ヲ囑託ス

吳海兵團柔道教師囑託

自今報酬年額千貳百圓ヲ給ス

横濱在勤海軍武官府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第十一海軍航空廠工員寄宿舎事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額七百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

川棚海軍工廠ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{七〇}同)

海軍航空本部附
海軍主計長曹長

越川 近松
中山 時宗
三塚 琢治

(各通)

同

海軍航空本部附職員
中島 瑛

海軍公報(部内限)第四千四百三十二號 昭和十八年七月六日

七〇一

海軍航空本部附雇員 小島 友治
 同 砂崎 季子
 臨時海軍徵備航空輸送本部總務課附ヲ命ス(十五日月海軍輸送本部長)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更
 第一驅逐隊司令ハ六月十一日司令驅逐艦ヲ神風ニ變更セリ

○司令潜水艦變更
 第十二潜水隊司令ハ五月十五日司令潜水艦ヲ伊號第七十五號潜水艦ニ變更セリ

第二十六潜水隊司令ハ六月二十四日司令潜水艦ヲ呂號第六十七號潜水艦ニ變更セリ

○司令掃海艇變更
 第一掃海隊司令ハ六月十二日司令掃海艇ヲ第五號掃海艇ニ變更セリ

○事務所設置
 驅逐艦早波艦裝員事務所ヲ六月二十八日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
 第二十八號掃海艇裝員事務所ハ六月二十八日撤去セリ

○追加
 六月十八日附公報(部内限)通牒教育機密第一七一號申進中件名竝ニ教育項目中教育ノ下ニ「研究」ヲ加フ

○正誤
 六月十一日附公報(部内限)號外官房軍第六五一號公稱第五六七五號ノ項中「(二百立方米)」ヲ「(三百立方米)」ニ、同第五六七七號ノ項中「(同)」(同)「(同)」ヲ「(フリストマン式)(四十立方米)」ニ改メ同第五六八一號ノ項中備考欄ニ「南洋方面工事用」ヲ脱ス
 自第五六七五號至第五六八二號ノ項中契約納入場所ノ欄ノ「吳工廠」ヲ削ル

(様式第二)

發註計畫
第 號 昭和 年 月 日
(發註廳)

第 號 昭和 年 月 日
(主務部局)

兵備二第 號 昭和 年 月 日
海軍省兵備局

受註 明細	品名		銘柄又ハ 規格番號		幅長		數量		納 入 月	備 考
					時 碼 ×		反數 又ハ個數	米數		
所 要 明 細	使用系別	銘柄	番手	密度	100米 (又ハ個數 當リ系統)		(1相180正) ト ス		購 入 月	
	經系			(時間)	相		相			
	緯系									
	其他									
住所 (受註者) 氏名										
住所 (製造者) 氏名										
										印

(昭和十八年七月六日海軍公報(部内限))

1083

(様式第二)

發註計畫
第 號 昭和 年 月 日
(發註廳)

第 號 昭和 年 月 日
(主務部局)

兵備綿第 號 昭和 年 月 日
海軍省兵備局

受註明細	品名		巾長		數量	購入月	備考
					米 反 個	月	
所要綿絲	經	使用綿絲 (純綿絲・混綿絲)	銘柄	番手	捆數 (1捆180疋トス)	入手月	月
	緯			單絲 雙絲	捆		
	其他			單絲 雙絲			

(昭和十八年七月六日海軍公報(部内限))

住所
(受註者) 氏名

工業組合聯合會所屬 組合
(製造者) 氏名

1084

海軍公報

(部内限) 第四千四百三十三號

昭和十八年七月七日(水)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第二號ノ九二
昭和十八年七月六日

海軍大臣

同	四十五口径 十年式十二種高角砲
同	四十五口径 十一年式十二種砲
同	四十五口径 十三年式十二種砲
同	五十口径 八八式十種高角砲

盛加減器

代用改得

トアルモノ
ハ之ヲ削除

○通牒

經給第二號ノ一一

昭和十八年七月一日

海軍省經理局

關係各應御中

徵用延期ニ因リ家事整理等ノ爲歸郷スル
場合ノ旅客運賃割引ニ關スル件通牒

海軍各應ノ被徵用員ニシテ徵用延期ニ因リ家事整理等
ノ爲歸郷スル場合ハ左記ニ依リ再徵用員旅客運賃割引
證ヲ發行スルコトト相成候條了知相成度

(限内部)

區分	類	別	品名	改正事項
改正	五十口径 三年式二十種砲			
同	五十口径 四年式十五種砲			品名中ニ
同	五十口径 三年式十四種砲		九一式時	「二型」ヲ追 記シ雜記中
同	五十口径 三年式十二種七砲		限信管目	ニ「二型」ヲ

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正
兵器簿ノ件通達

海軍公報(部内限) 第四千四百三十三號

昭和十八年七月七日

七〇三

追テ昭和十八年鐵道省告示第七十二號(七月一日官報掲載)參照ヲ得度

記

一 割引條件

海軍各廳ノ被徵用員(雇員、傭員、工員、鑛員、船員)ニシテ徵用延期ニ因リ家事整理等ノ爲歸郷スル場合ノ往復旅行ニ限ル

二 等級及割引率 三等 二割

三 割引區間 省線各驛相互間

四 割引證

イ 海軍省ニ於テ鐵道省ヨリ交付ヲ受ケ經理部又ハ經理部支部ニ配付ス

ロ 東京所在各廳ハ經理局ニ、其ノ他ノ各廳ハ最寄ノ經理部又ハ經理部支部ニ所要數ヲ豫定シテ要求スルモノトス

ハ 發行擔任官ハ經理局長、經理部長又ハ經理部支部長トス

ニ 發行擔任官ハ番號及發行擔任官職氏名ヲ記入ノ上職印ヲ押捺シ各廳長ニ交付ス

五 旅行證明書

ホ 各廳長ハ發行擔任官ニ代リ使用者ノ氏名年齢及發行日附ヲ記入シテ本人ニ交付ス
ヘ 前號ニ依ル記載事項ノ訂正ハ發行擔任官ノ職印ヲ要スルモノトス

被徵用員ガ旅行ヲ爲ス場合ハ左ノ旅行證明書ヲ携帶シ係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

表

第	再徵用員旅行證明書
號	現住所
	氏
	生 年 月 日 名
	右ハ被徵用員ニシテ徵用延期ニ因リ歸郷ノ爲旅行スルモノナルコトヲ證明ス
	昭和 年 月 日
	發行者 職 氏 名 職印

備考 發行者ハ所屬廳長トス

(九・一規)

(六・四規)

裏

- 一 本證明書ハ他人ニ貸與シ又ハ讓渡スベカラズ
- 二 本證明書ハ乗車船中必ズ携帯シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス
- 三 本證明書ヲ紛失シタルトキハ直ニ發行者ニ届出ヅベキモノトス
- 四 本證明書ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ三箇月トス

六 乗車員數ノ連絡豫報

各廳長ハ旅行豫定員數ヲ取纏メ別ニ運輸本部長ノ定ムル處ニ依リ處理スルモノトス

七 方向變更及經路變更ノ取扱ハ之ヲ行ハズ

八 通報及其ノ取扱

經理局、經理部又ハ經理部支部ニ於テハ昭和六年經給第九一號(會計法規類集三卷六四〇頁參照)第一號及第二號ニ準ジ處理ノコト

海人機密第六九號

昭和十八年七月五日

海軍公報(部内限)第四千四百三十三號

昭和十八年七月七日

各廳長殿

海軍省軍務局長
海軍省人事局長

戰死、戰傷病者ノ遺家族ニ對スル私的通知等ニ關スル件照會

首題ニ關シテハ昨年七月三日海人機密第七八號ヲ以テ之ガ取締ニ關シ照會シアル處今猶往々ニシテ私ニ通知シ或ハ事前ニ遺族ヲ弔慰シ又ハ不用意ノ裡ニ漏洩スル等機密保持上ハ勿論遺家族ニ對シ種々不都合ヲ生ジタル實例尠カラズ誠ニ遺憾ナル次第ニ有之候ニ就テハ海人機密第七八號ノ主旨徹底ニ關シ重ネテ嚴ニ示達相成

○ 辭令

(各通)

海軍中佐 山川 周吉

海軍主計少佐 子安 榮春

第三課務ヲ命ス(三十五)海軍省兵備局)

海軍主計少佐 山内 伸穗

海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏ヲ命ス

同 兒玉 茂

右同取扱官吏ヲ免ス(以上皆海軍省經理局長)

七〇五

艦隊經費主任出納官吏ヲ命ス
海軍主計少佐 山内 伸穂

艦隊經費主任出納官吏ヲ免ス以上(扶助支出官
海軍省經理局長)
同 兒玉 茂

收入官吏ヲ命ス
海軍省經理局長
員海軍主計少佐 山内 伸穂

右同免ス(以上扶助歳入徴收官 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○正誤
本年三月二十五日附公報(部内限)令達欄中「昭和十七年官房機密第一〇八四號及同第一〇八五號」ハ「昭和十七年官房機密第一〇八四號」ノ、昭和十八年官房機密第一三四五號別冊扉中「昭和十七年官房機密第一〇八四號及同第一〇八五號」ハ「昭和十七年官房機密第一〇八四號」ノ、二四頁十行目中「第二號」ハ「第三號」ノ孰モ誤

海軍公報

(部内限) 第四千四百三十四號

昭和十八年七月八日(木)

海軍大臣官房

○通牒

入秘第二號ノ二三八

昭和十八年七月七日

海軍省人事局長

各廳長 殿

應召員敍位敍勳年數通算ノ件通牒

首題ノ件ニ關シテハ從來充員召集セラレタル者又ハ補
缺、演習召集ヨリ引續キ充員召集セラレタル者等ニ限
リ前後ノ年數ヲ通算セラレタルモ自今應召員ハ召集ノ
種別ヲ問ハズ總テ參著ノ日ヨリ在職年ニ通算シ又敍勳
年加算附與セラレベキ場合ハ附與シ得ルコトト定メラ
レ候條了知相成度

追テ本件ハ既ニ敍位敍勳發令セラレタル者ニハ及ビ
サザルモノトス尙之ガ通算ノ爲資格發生セル場合敍
位ニ在リテハ昭和十八年八月一日、敍勳ニ在リテハ
同年八月三十一日資格發生者トシテ具申相成度

○雜款

○試驗問題發送

第五期 館山海軍砲術學校高等科砲術陸戰

第六期 館山海軍砲術學校高等科砲術陸上對空高角砲

第七期 館山海軍砲術學校高等科砲術陸上對空機銃

第八期 館山海軍砲術學校高等科砲術陸上對空機銃

練習生採用試驗問題發送

右六月二十八日左記ノ通發送濟、未着及別ニ必要ノ向
ハ館山海軍砲術學校ニ至急通知相度

記

一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送セリ

二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部及各警備府宛送

付(聯合試驗參加豫定ノ艦船部隊ニシテ行動豫定變

更等ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ若

干ノ餘裕ヲ含ム)

(館山海軍砲術學校)

○見學取止

本校校務ノ都合ニ依リ左記期間一般ノ見學ヲ取止メ候

條承知相成度

海軍公報(部内限) 第四千四百三十四號

昭和十八年七月八日

七〇七

自昭和十八年七月十五日
至同年九月三十日

(海軍兵學校)

○下士官兵潜水艦講習員入校ノ件
五月二十日海軍公報 (部内限) 掲載ノ本講習員入校場

所 主計兵 大竹本校 トアルヲ

主計兵 吳分校 ニ改ム

(海軍潜水學校)

○事務開始

上海海軍航空隊 (假稱) 設立準備事務所ハ六月五日大井海軍航空隊上海分遣隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

對馬艦裝員事務所ハ六月十九日鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第四十八號驅潜艇艦裝員事務所ハ六月三十日新潟市入船町四丁目新潟鐵工所新潟工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

五〇一航空隊事務所ハ七月一日千葉縣木更津市木更津航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

第二十七號掃海艇艦裝員事務所ハ七月一日兵庫縣相生市相生株式會社播磨造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ
第二三一設營隊設立準備事務所ハ七月二日舞鶴海軍建築部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第十九防空隊事務所ハ七月二日撤去セリ

○取消
七月一日附公報 (部内限) 辭令欄六七三頁下段十七行目「鈴木親抵」、同六七四頁下段一行目「峰岸正太郎」、同四行目「村上文雄」ノ辭令ハ孰モ取消

○正誤
昭和十七年十二月三日附公報 (部内限) 一二七二頁辭令欄上段五人目線路工員山下幸太郎ノ罷免月日「十月十五日」ハ「十二月二日」ノ、七月一日附公報 (部内限) 辭令欄六七二頁下段十二行目「安藏羊藏」ハ「安藤羊藏」ノ孰モ誤

海軍公報(部内限)第四千四百三十五號

昭和十八年七月九日(金) 海軍大臣官房

○令 達

官房備第一八三號

昭和十七年官房第一七一六號中左ノ通告正ス

昭和十八年七月三日

海軍大臣

第一號(七)治療及扶助中(ロ)及(ハ)ヲ左ノ如ク改ム

(ロ)公務ニ原因シ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死

タルトキハ傭人扶助令ヲ適用シ扶助金ヲ支給

前項ノ扶助金算出ノ標準タル給料ハ戦地ニ向ケ最

終ニ戦地外ノ地ヲ出發ノ日ヨリ最初ニ戦地外ノ地

ニ到着ノ日迄ノ期間ニ於テ公務ニ依リ受傷、罹病

又ハ死亡シタル場合ニ付テハ之ヲ給料及増給(給

料)二十割トス)ノ合計額ト爲スモノトス

特設應ニ於テハ雇員傭人扶助金支給細則第二條

ニ規定スル書類作成ニ必要ナル資料ヲ派遣元應ニ

海軍公報(部内限)第四千四百三十五號 昭和十八年七月九日

七〇九

送付シ派遣元應ハ同條ニ規定スル書類ヲ作成シ扶
助金ノ支出ヲ同應所管領守府所在地ノ經理部(東
京ニ在ル派遣元應ハ海軍省總務局)ニ請求スルモ
ノトス

(参照) 昭和十七年三月二十八日海軍公報(部内限)

官房經機密第四一二號

大東亞戰爭中雇員及傭人ニ支給スベキ扶助金ニ關シ左
ノ通定ム

昭和十八年七月三日

海軍大臣

第一條 雇員及傭人ニシテ戦地ニ在ルモノ若ハ派遣セ

ラレタルモノ又ハ一時往復スルモノ公務ニ原因シ傷

痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合雇員扶

助令又ハ傭人扶助令ニ依リ支給スベキ扶助金ハ本令

ニ依ル

本令ニ明文ナキモノニ付テハ雇員傭人扶助金支給細

則(以下細則ト稱ス)ニ依ル

第二條 前條ノ規定ニ該當スル者ニ支給スベキ扶助金

ノ算出ノ標準ニ關シテハ戰地ニ向ケ最終ニ戰地外ノ地ヲ出發ノ日ヨリ最初ニ戰地外ノ地ニ到著ノ日迄ノ期間ニ於テ公務ニ依リ受傷、罹病又ハ死亡シタル場合ニ付昭和十八年官房經機密第二六七號ヲ適用ス

第三條 廳長扶助金ノ支給ヲ要スルトキハ細則第三條ニ規定スル書類ノ作成及整備ヲ艦船部隊其ノ他ノ各部所管鎮守府ノ海軍人事部長、所管ノ鎮守府ナキ各部ニ在リテハ海軍省人事局長ニ委託スルコトヲ得但シ戰地ニ派遣前ノ應ニ在籍ノ儘轉雇轉備シタル雇員、傭人ニ在リテハ當該在籍廳長(以下在籍廳長ト稱ス)ニ委託スルモノトス

前項ノ委託ヲ爲ス廳長在ラザル場合ハ該廳ノ所屬シタル廳長又ハ艦船部隊殘務整理班長該廳長ニ代リ前項ノ手續ヲ行フコトヲ得

第四條 廳長前條ノ規定ニ依リ委託ヲ爲ス場合ニハ細則第二條ニ規定スル書類作成ノ資料トシテ委託ヲ受クベキ廳長ニ左ノ該當事項ヲ通牒スルモノトス

- 一 職氏名
- 二 受傷、罹病又ハ死亡ノ年月日
- 三 受傷、罹病又ハ死亡ノ場所

四 受傷、罹病又ハ死亡ノ概況

五 死體收容ノ有無

六 履歷

採用、命課又ハ給料額等海軍部内ニ採用後受傷、罹病又ハ死亡ニ至ル迄ノ事項詳記ノコト

七 本籍及遺(家)族(傭人死亡當時其ノ收入ニ依リ生活ヲ維持シタル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)遺(家)族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ノ現住所、

受傷者、罹病者又ハ死亡者トノ續柄及氏名

八 受傷、罹病又ハ死亡ニ依ル諸給與金支給濟ノ有無(支給濟ノモノニ付テハ其ノ種別並ニ金額)

第五條 廳長第三條ノ規定ニ依リ委託ヲ爲シタルトキハ所屬長官ニ之ヲ報告スルモノトス

第六條 第三條ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル海軍省人事局長、海軍人事部長又ハ在籍廳長ハ扶助金ノ支給ニ付テハ之ヲ本人受傷、罹病又ハ死亡當時ノ廳長ト看做ス

官房經機密第四三五號
艦船部隊等ノ經費等ノ取扱特例申左ノ通改正ス
昭和十八年七月八日

海軍大臣

第十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條ノ二 支出官ト遠隔ノ地ニ在ル艦船部隊等ノ

經費ハ必要ニ應ジ兩支出官協議ノ上最寄支出官ノ經費支辨ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ新支出官ハ速ニ其ノ旨海軍大臣ニ報告スベシ

附則

本令ハ昭和十八年六月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一頁ノ七ノイ

官房艦第三三四號

昭和十七年官房第五八一三號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月八日

海軍大臣

第二號ホ中「特設特別工作部ヲ除ク外」ヲ削ル

第三號ハノ(三)ノ(A)中「工費、材料費及支拂外費ニ區分」ヲ削ル

第三號ハノ(三)ノ(C)中「毎月頭及」ヲ削リ「工事現況(完了)調書」ヲ「工事完了調書」ニ改ム

書式第二ヲ別紙ノ如ク改ム

海軍公報(部内限) 第四千四百三十五號

昭和十八年七月九日

七一

(別紙添)

(參照) 官房第五八一三號ハ工作艦(特設工作艦ヲ含ム)、特設海軍工作部、特設海軍航空廠、特設特別工作部、管備府附屬ノ修理工場、艦船又ハ兵器ノ修理ヲ爲ス特設部隊等ニ於テ工事ニ要スル契約、通常物品及工事費ノ整理ニ關スル件ナリ(昭和十七年海軍公報(部内限) 第四二〇七號)

○通牒

官房機密第二五七號ノ二

昭和十八年七月七日

海軍次官

各廳長殿

海軍暗送公報發行ニ關スル件通牒

從來海軍公報(部内限)ニハ高度ノ機密事項ハ之ヲ掲載セザルヲ例トセル處最近極秘以上ノ令達、通牒等ニシテ公報ニ掲載スルヲ適當ト認メラル、モノアルニ付テハ自今海軍大臣官房ニ限リ海軍暗送公報ヲ發行シ海軍省構内各局部起案ノ文書ヲ暗號化シテ掲載シ各廳(海軍省構内各局部ヲ除ク)ニ配付スルコトニ定メラレ候

追テ本公報ノ取扱ニ付テハ其ノ性質ニ鑑ミ特ニ左記

ヲ遵守シ慎重ヲ期セラレ度

記

- 一 暗號文ハ着信者ノ外翻譯セザルモノトス但シ第三號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 暗號文ハ翻譯後成ルベク速ニ確實ナル方法ヲ以テ之ヲ燒却シ暗號文ト翻譯文ハ同時ニ保管セザルモノトス
- 三 着信者ハ要スレバ關係ノ廳ヲ指定シテ暗號文ヲ翻譯セシムルコトヲ得
- 四 暗號文ハ翻譯セザル場合ト雖モ受領後一ヶ月ヲ經過セバ確實ナル方法ヲ以テ之ヲ燒却スルモノトス
- 五 翻譯文ハ文書ノ形式トシ共ノ機密區分ハ文書番號ニ附記セルモノニ依ル
- 六 本公報ハ秘扱トシ他ノ公報ト區別シテ別綴トスルモノトス

官房機密第二五七號ノ三

昭和十八年七月七日

海軍省 副官

海軍省構内各局部長殿

暗送公報掲載事項取扱手續ノ件申進

- 首題ノ件ハ明治四十五年官房第二五七號及海軍省處務規程ニ依ルノ外左記ニ依ルコトニ定メラレ候
- 一 暗送公報ニ掲載ヲ要スルモノハ各主務局部ニ於テ文書ノ上方欄外ニ「暗送公報」ノ指定ヲ附ス
- 二 暗送公報ニ掲載スルモノハ大臣官房ニ於テ暗送公報番號ヲ記入シ別紙様式(略)ニ依ル暗送公報原稿紙ニ之ガ文書番號、機密區分、月日及發受信者名ヲ記入原案ニ添附ノ上海軍省電信課ニ回附ス
- 三 海軍省電信課ハ適當ナル暗號ニ依ル暗號文ヲ暗送公報原稿紙ニ記入シ原案ハ之ニ「月日暗送公報原稿作製濟」ノ旨附記ノ上主務局部ニ、暗送公報原稿ハ之ヲ大臣官房ニ送付ス
- 四 暗送公報ニ掲載スル文書ハ同公報ノ性質ニ鑑ミ圖表ヲ含マザル文書ニシテ各廳長宛ノモノ又ハ宛先ヲ個々ニ記載シタルモノナルヲ要ス(關係廳長宛ト云フガ如キモノハ不可ナリ)
- 五 大臣官房ニ於テ印刷發行ス
- 六 發行後大臣官房ヨリ主務局部ニ對シ暗號文ヲ切取リタル公報一通ヲ送付ス

兵備四機密第六〇四號

昭和十八年七月三日

海軍省 兵備局
海軍省 經理局

關係各廳御中

特設廳所屬工員ノ取扱及給與ニ關スル件中
改正ノ件通牒

昭和十七年兵備勞機密第二九五號中左ノ通改正ス

記

第三號ニ左ノ一項ヲ加フ

共濟組合員ニ非ザル工員ニシテ戰地ニ向ケ最終ニ戰
地外ノ地ヲ出發前又ハ戰地ヨリ最初ニ戰地外ノ地ニ
歸著後公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ
死亡シタル場合ハ備人扶助令ヲ適用シ給料ヲ算出ノ
基礎トスル扶助金ヲ支給セラル

(參照) 昭和十七年三月二十八日海軍公報(部内限)

海人第三〇號ノ一四九

昭和十八年七月八日

海軍省 人事局長

海軍公報(部内限) 第四千四百三十五號

昭和十八年七月九日

七一三

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各艦隊參謀長
練習聯合航空總隊參謀長
關係各所轉長

拔擢名簿ニ登載スベキ者ノ範圍ニ關スル
件申進

昭和十七年五月一日上等飛行兵曹ニ進級シタル者ハ其
ノ全員ヲ今期拔擢名簿ニ登載スルコトニ定メラレ候條
了知相成度

契九機密第二八二號

昭和十八年七月八日

海軍省 經理局長

各鎮守府參謀長
大湊、大阪警備府參謀長 殿

海軍下士官及兵用價格特配酒類取扱要領ニ
關スル件申進

昭和十八年五月七日大藏省告示第二百四號第三項ニ依
リ指定セラレタル酒類庫出稅ノ輕減ヲ爲スベキ酒類ニ
シテ海軍下士官及兵用ノ酒類ノ配給ハ別紙海軍下士官
及兵用價格特配酒類取扱要領ニ依リ處理方可然取計相
成度

(別紙)

海軍下士官及兵用價格特配酒類取扱要領

一 配給ノ範圍、品種、數量

(イ) 海軍下士官及兵用價格特配酒類ハ内地ニ在ル下士官及兵(未成年者ヲ除ク)ニシテ價格特配酒ヲ必要トスル者ニ之ヲ配給ス

(ロ) 價格特配ヲ爲スベキ酒類ハ清酒、燒酎、及麥酒トス

(ハ) 海軍省經理局ハ大藏省主稅局ト協議ノ上各四半期毎ニ價格特配酒類ノ種類、級別及數量ヲ決定スルモノトス

二 配給方法

(イ) 海軍省經理局ハ各四半期毎價格特配酒類ヲ道府縣別ニ横須賀、吳、佐世保、舞鶴、大湊、大阪ノ各海軍經理部ニ割當テ關係各部ニ通知ス

(ロ) 各經理部長ハ右割當ノ範圍内ニ於テ海軍下士官及兵用價格特配酒割當證明書ヲ發行シ之ヲ關係各部隊酒保委員長ニ送付ス

(ハ) 關係各部隊酒保委員長ハ右證明書ヲ地方配給統制機關(道府縣酒類販賣株式會社又ハ地方麥酒販賣株式會社)ニ送付シ價格特配酒ノ配給ヲ受クル

モノトス

(ニ) 歸投艦船部隊乗員上陸時用、進發部隊補給用、内地ニ在ル外戰部隊補給用、其ノ他軍港地下士官兵集會所用ニ充ツル爲海軍省經理局ニ於テ定ムル一定量ヲ限リ各海軍經理部長ハ海仁會支部ニ對シ前記割當證明書ヲ發行スルコトヲ得ルモノトス

各海仁會支部ハ右證明書ニ依リ前號配給統制機關ヨリ特配酒ノ配給ヲ受クルモノトス

(ホ) 下士官及兵各人ニ對スル配給ハ關係各部隊酒保委員長又ハ各海仁會支部購買課參事ノ定ムル方法ニ依ル

但シ下士官及兵以外ニ配給セザル様嚴重取締リヲ要ス

(ヘ) 經理部ハ毎月配給實績ニ付調書(別紙様式)ヲ作製シ經理局ニ通知ス

(別紙添)

水機密第九八號ノ三

昭和十八年六月二十四日

水路部長

關係各廳長殿

普通陸圖ヲ秘密地圖ニ編入ノ件通知
首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通通牒有
之候條了知相成度

(別紙)

大本營 陸軍部 參謀第八〇號第一一

普通圖ヲ秘密地圖ニ編入ノ件通通牒

昭和十八年六月十九日

大本營陸軍參謀部總務部長 額田 坦

水路部長 阿部嘉輔殿

別紙目錄ノ普通圖ヲ秘密地圖ニ改定編入セラレタルニ
付左記ニ基キ整理相成度依命通牒ス

追テ右地圖ハ其ノ秘密區域ヲ規定ニ從ヒ整理ノ上普
通圖トシテ陸地測量部ヨリ近ク發行セラルヘキニ付
爲念申添フ

左記

一、各部隊、官衙及學校ニ保管シアル別紙目錄ノ地圖
ハ各所管毎ニ取纏メ昭和十八年八月三十一日迄ニ參
謀本部ニ提出スルモノトス
但シ五萬分一及二萬五千分一地形圖ニシテ將來保管
ヲ必要トスルモノハ別ニ取纏メ提出シ秘密地圖一連

番號ノ記入ヲ受クルモノトス
二、個人所有ノモノハ無償ニテ燒却スル如ク取計フモ
ノトス

通牒先

陸軍省、海軍省、教總、航總、防總、
東、中、西各部、北方、關東、朝鮮、
臺灣各軍、支總軍、岡、剛、渡各集團、
香港總督、侍從武官、軍令部、船輸鐵
輸、陸大、陸測、中央氣象部、軍調、
大陸通信隊、部内各部、(班)一航

(別紙添)

○ 辭 令

(各通)

海軍省事務ヲ囑託ス(海軍省)

鐵道官	藤井松太郎
同	福島善清
同	齋藤秀雄
海軍軍醫大佐	横倉誠次郎
海軍軍醫中佐	荻谷一夫
同	神代延敏
海軍軍醫少佐	松尾正俊

海軍公報(部内限)第四千四百三十五號 昭和十八年七月九日

七一五

1097

(各通)

海軍軍醫少佐 内山彦九郎
同 只 禁 强

同 西田 福治

海軍軍醫大尉 皆川 邦彦

同 東海林 正美

同 宮入 正人

昭和十八年六月二十五日乃至七月八日施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験(身體検査) 臨時委員ヲ命ス

海軍軍醫大佐 宮 尾 績

同 種子田 庸夫

同 立 川 勇

海軍軍醫少佐 福田 省三

海軍軍醫大尉 中村 義一

昭和十八年六月二十五日乃至七月八日施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験(身體検査) 臨時委員ヲ免ス(以上 社 同)

軍令部出仕海軍大佐 葦名 三郎

戦史部勤務ヲ命ス(社 同 軍令部)

依田 克雄

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額百貳拾五圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル

高 橋 武

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額八拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(社 同 海軍省南方政務部)

○ 雜 款

○事務開始

第五三一海軍航空隊ハ七月七日館山海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○本日普通公報發行セズ

(別紙目録)

(昭和十八年七月九日海軍公報(部内限))

父島		鉤路		綱走		根室		圖名		五十萬分一輿地圖		根室近傍		梯尺		根室近傍	
摘		要		摘		要		摘		要		摘		要		摘	
長崎	廣島	宇和島	西之島	小倉	長崎	西之島	小倉	宇和島	長崎	西之島	小倉	宇和島	長崎	小倉	宇和島	西之島	小倉
一六、七、三〇發行ノモノヲ除ク	一七、一二、二八發行ノモノヲ除ク				昭和一六、四、三〇發行ノモノヲ除ク												
要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要

書式第二

(昭和十八年七月九日海軍公報(部内限))

引揚艦船(處理物件)工事完了調書

、 、 、 特別工作部

工事番號 (昭和 年度第 號) 作業船名 ○ ○

艦船名(品名)					所屬			
船材	長	深	吃水	總噸數	製造所名	引揚(處理)着手年月日	引揚(處理)完了年月日	

支出額

從業員延日數	工費	材料費	外費	計	標準引揚費	作業船就業日數

備考

1. 沈没原因及工事現狀ノ大要ヲ備考ニ記述スルモノトス
2. 徴用技術員及人夫ニ要スル人件費ハ工費、直買材料代ハ材料費、旅費、運搬費其ノ他雜費ハ外費トシテ整理スルモノトス
3. 引揚艦船(處理物件)ハ海軍所屬ノモノニ在リテハ「海軍」、陸軍所屬ノモノニ在リテハ「陸軍」、徴用船ニ在リテハ「何汽船會社(船主名)海軍(陸軍)徴用船」、徴用船ニ非ザル民間所有ノモノニ在リテハ「何汽船會社(船主名)」ノ如ク所屬欄ニ記載スルモノトス
4. 戦時事故ノ爲沈没セルコト明カナルモノニ在リテハ作業員延日數及作業船就業日數ヲ省略スルコトヲ得
5. 標準引揚費ハ所要經費ガ従前ノ例ニ依ル引揚費ト比較シ少額ナル場合ニ於テハ海軍工作廳工事費整理規則第四十七條ノ規定ニ準ジ適當ト認ムル額ヲ算定計上スルモノトス
6. 番號ハ年度毎ニ一貫番號トシ當該年度最終番號ニハ「何年度終」ヲ記載スルモノトス
7. 總噸數不明ナル場合ハ工事費整理規則別表第二號記事四ノ例ニ依ル